

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	令和4年9月9日	評価結果市町村受理日	令和4年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202502-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202502-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 9 月 27 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人ひとりの個性を大切にし、入居者様の声をよく聞き、思いに添えるように支援しています。コロナ禍で、面会や外出が制限される中で、少しでも楽しんで頂く為、毎月1回のイベントの食事には工夫をこらして作っています。認知症になっても、今ある力を大切にしたい可能性を信じる介護にしていきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の残存能力を維持してもらえるようにできること(手すりふき、洗濯干したみ、食器洗いふき、テーブルふき等)を継続して行ってもらっている。職員間の人間関係が良好で、「わからないことや不明なことは互いに教えあって情報共有ができています。」と管理者と職員双方から意見を聞くことができた。夜勤者は1階2階に各1人なのでインカムを導入し、助け合えるように配慮したり、管理者はインスタグラムで事業所の様子を発信するなどの工夫をしている。お楽しみとして毎月季節を取り入れたイベント食を職員が調理したり、毎食、材料をネット購入し手づくりしている。お便りの中に毎月利用者の写真をいれ、面会はコロナの状況を見て、適切な感染対策を施した上で、玄関で直接会ってもらったり、ZOOMを利用してもらったりと柔軟に対応している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域につながる理念のアイデアを出し合い作りました。理念を共有し、みんなが同じ目的に向かって業務ができています。	開設当初からの理念で、玄関、事務所、リビング、2階に掲示し、年に2回の評価シートで理念を確認し実践につなげている。年2回の管理者との面談で職員は課題を明確にし、年間目標を立てて実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出・イベントの自粛が必要とされ、地域とのつながりが困難な状況になっています。	自治会に加入し回覧板で地域の情報を得ていたが、コロナ禍で行事も中止となり自治会の方には接する機会が少ないが、運営推進会議の議事録を自治会長に持参し近況報告をしている。ご近所へ散歩に出かけると挨拶を交わす関係性を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はコロナ禍の為、書面での開催を行っています。議事録提出後、自治会の意見をお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの近況報告・感染対策・研修内容など、報告して質問・アドバイスを頂いています。最近ではコロナ禍の為、自治会長からの意見を頂いています。	運営推進会議は年間計画を立て実施しているが現在は書面開催である。自治会関係者に数部届けたり、地域包括支援センターに届ける際には、意見を頂いている。家族全員に月のお便りと共に送付するなど、施設での近況報告も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連絡をとりながら、協力をお願いしています。そのつながりから、入居相談などがあります。	地域包括支援センターとは連絡や協力を依頼している為、入居相談などもあり、良好な関係性がある。地域包括支援センター主催のグループホーム連絡会や研修、カフェがコロナ前は行われていたが現在はストップしている。事故報告は行政担当課に持参している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今は会社全体で、不審者の侵入を防ぐ為、玄関の施錠を行っています。全ての職員に身体拘束廃止の意味を知ってもらい、どんな事が拘束や虐待にあたるかを理解した上で、業務を行ってまいります。	マニュアル、指針は整備され職員研修で使用している。委員会はメンバーが管理者と各階のリーダーで年4回行われ、会社主体の合同の身体拘束委員会がZOOMで行われている。研修は職員全員参加で年3回行われ、参加困難な職員は資料を見てレポート提出をしている。	

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・職員のストレスチェック・職員同士、情報の共有や意見を交わす事で防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様個人の必要に応じて、対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面をお渡しして説明し、ご理解、納得のいくまでお話しして、後にサインを頂いております。毎回、転倒に関しては、お願いをさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置、ご家族には、状態や状況をお話させて頂いています。ご相談などは、その都度対応しています。	月に1回、個人の写真を1~2枚添え、入居者個人の日常の様子を記入したお便りを家族に送付している。管理者は電話やメールをして状況報告をし意見を聞く機会を設けたり、インスタグラムを発信していて、家族も閲覧している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度の定例会と毎月のカンファレンスを実施し意見を出し合っています。コロナ禍では、実施が難しい時は、書面での開催をして意見交換をしました。	2か月に1回合同で夕方、定例会を行い、研修をして、時にはユニット毎会議を行っている。担当職員が担当利用者のモニタリングを行い毎月そのカンファレンスを午前中に行っている。職員から意見や要望が出され、運営に関する提案などを聞き、反映する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度、管理者会議を開催。(リモートでも実施)ホームの状況、職員の状態など報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得。 会社全体の研修を実施しホームから参加者を選出。研修後、ホーム内研修として行っています。静岡ホームクリニックによる研修会もあります。(リモートでの実施もあり)		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今はコロナ禍でできていませんが、地域包括の主催で、地域のグループホームを対象に情報交換を行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	業務優先になりがちですが、入居者様優先でご本人の要望などに耳を傾け、安心して生活を送ることが出来るように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、電話や来所頂いた時に、現在の様子や体調面などをお伝えし、ご家族の要望や不安などをお聞きして、良好な関係を構築できる様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、課題分析をし、ニーズを見極め、その方にあったサービスを提供できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事など、出来る事はしてもらいながら、各々が役割を持って生活が出来る様に支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にケアプラン説明時、ご家族の意向や不安をお聞きし、今後のケアに繋げる様にしています。ご家族様と入居者様が笑顔で過ごせる様な環境づくりをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスが感染拡大する前までは、行っておりました。 今現在は面会禁止であり、お手紙などで関係が途切れないように、対応しています。	面会は感染状況に応じて行い、予約を受け、玄関で、パーテーション越しに話をしてもらっている。コロナ前は多くのボランティアが来所していたが、現在は自粛しているので終息後再開してもらえるようにしている。	

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1・2階の入居者様共に、ご本人の意思を大事にしながら、日々の交流をしています。入居者様同士の関係を把握し、場合によっては席替えをすることもあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方々から、相談があればその都度、対応し支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望にそえる様、各々話を傾聴しています。返答ができない方には、日頃の様子を観察したり、ご家族に聞いたりして、アセスメントしつつ、生活しやすいようケアをしています。	自立度の高い利用者は自己主張ができるので傾聴し実現するようにしている。職員と1対1で話したい人には機会をみて対応したり、困難な利用者には家族に聞いたり本人の反応を観察している。情報は職員間で共有し、耳が遠くなった利用者にはカードやホワイトボードで筆談するなどの工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントを行い、今までの生活の把握に努めております。日常の会話やご家族の方々から聞き取り、その情報は、職員全員把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員からの報告、介護記録の確認や一人一人の日常において、関わりを持ち観察する事で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1回、カンファレンスを行い、職員同士で話し合い、現状にそったケアプランを作成しています。状況に変化があった場合は、すぐに話し合いケアプランを変更しています。ご家族にも電話などで、要望を伺っています。	担当職員が担当入居者のモニタリングを行い、それに基づいてケアマネジャーが加わりカンファレンスをして、日報や申し送りノートを参考に介護計画書を作成している。家族やキーパーソンにも電話で意見や要望を聞くようにしている。	介護計画書の更新の時には家族やキーパーソンからあまり意見が出ないが、日頃の要望や話から介護計画書に反映できることを聞き取り、記入するように希望します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに経過記録を入力、支援日誌は手書きで記録し、職員間で情報の共有に努めています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その方に合わせた柔軟なサービスを行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナ禍の為、ボランティア方々の交流がありませんが以前は、バイオリンの演奏、踊りなどの訪問がありました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の静岡ホームクリニックとたんぼ診療所の往診があり(入居者様によって違う)急病時等、臨時往診も対応してくれます。	開設時からの協力医に3名、他の利用者は静岡ホームクリニックの往診を受けている。どちらも24時間対応してもらえ、他科診療は家族対応が基本で職員対応の場合は有料である。ホームクリニックは他科についても初期対応があり、看護師が利用者の体調について相談にのってくれ、対応の指示をしてくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	静岡ホームクリニック看護師による、健康チェックをしています。処置のアドバイスも受け、指示により受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係との、情報交換は常に出来る様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医、看護師と話し合い、希望に沿った支援ができるよう、常に連携をとっています。	入居時に重度化や終末期について事業所の方針を説明している。重度化、終末期になると協力医が現在の状態について説明をし、事業所の方針を再度家族と話し合い家族の考えを確認してその後の対応を連携をとり支援をしている。看取りの研修は行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修、勉強会、現場での経験を活かし、対応できる様、努めています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今現在新型コロナウイルスによって、消防立ち合いの訓練が実施できない状況であり、実施環境が整ったら、即座に行う予定です。	年に2回防災訓練を行っている。消防署に計画書は提出しているが、コロナ禍で立ち合いの合同訓練はできていない。備蓄、備品は法人が管理している。生活用水や飲料水も緊急時に備えて準備している。	前回の評価後夜間想定訓練や地域連携について目標をたて実行する予定であったが、コロナ禍となり進んでいないため、今後の進め方に期待しています。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに対し注意をしています。気づきがあれば、管理者、リーダーが注意をして改善を図っています。	利用者への声かけは職員個々が穏やかな口調を心掛けているが課題がある場合は、職員同士でまたはリーダーが注意したり、会議で取り上げ話し合っている。トイレ介助等にも注意をはらい、都度研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々の、日常会話や声掛けの中で、ご本人の希望を汲み取る様心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、希望に沿った支援を行える環境を整えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を決められる方に対しては、行って頂きます。 訪問美容室も2ヶ月に1回、来て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは主として、職員が行っていますが、洗いや、食器拭きなどは出来る方に、同意を得て、いっしょに行っています。	献立を決め、食材はスーパーのネット販売や生活協同組合で購入している。調理は主に職員が作っているが出来る範囲で利用者にお手伝いをしてもらっている。現在お手伝いができる利用者が多くいる。お楽しみ食の時は出来上がった料理や過程の写真をインスタにあげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をタブレットに記録し、入居者様の摂取量を把握し支援を行っています。水分量の少ない方には、好きな飲み物を提供して、水分摂取を促しています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしています。お1人で歯磨きが出来ない方には、仕上げ磨きをしています。義歯の掃除もしっかりできない方には、職員が対応します。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録により、入居者様の排泄パターンを把握、定時誘導や声掛けを行っています。拒否のある方には、時間をあける等して、誘導しています。	排泄の記録はタブレットに入力し、利用者個々の排泄パターンを把握し出来るだけトイレでの排泄を支援している。自立の利用者には見守り支援をしている。夜間はポータブルトイレを使ったり、パットを使用したり工夫しながら、睡眠時でも時間をみてできるだけトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をタブレット、申し送り確認し、処方された下剤の服用を行っています。水分摂取を促し、体操が可能な方には声掛けしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル測定、体調をみて、声掛けをし入浴をして頂いています。更衣、洗身等、ご自分で出来る事はして頂いています。拒否のある方には次の日に変えたり、職員を変えたりして対応します。	週2回、介助が必要な利用者は午前に、見守りで入浴する利用者は午後に入浴している。自立の利用者の中には希望で週に3回入浴している。同性介助を希望する利用者には入浴の順番や入浴日を変えて本人の希望に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人のペースで過ごして頂いています。夜間は快適に休息出来る様に、各居室の温度管理とトイレ誘導をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、入居者様の名前、日付、薬の確認をしています。服薬後の確認を別の職員がしています。薬の変更や増減された時は、体調の変化を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来る範囲で家事をお願いしています。体調が悪いとお断りされる方もいらっしゃると思いますが、ほとんどの方が快く引き受けてくれます。残存能力により役割分担を行っています。		



静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染拡大により、密になる場所には行けませんが、ホーム近くを一緒に散歩したりしています。	コロナ禍で外出を自粛したり、夏の熱中症対策のため外出支援を制限していたが、感染対策をとりながら、利用者と職員1対1で近所を散歩することに力を入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、入居者様全員の預かり金を管理させて頂いています。ご本人の生活の必需品を職員が買い物に行くようにしています。 コロナウイルスの為、入居者様との買い物は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って、電話や手紙のやり取りがスムーズに出来る様に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は、毎日の清掃、室温温度を管理しています。季節にあった飾りつけなどを行っています。 感染予防も兼ねて、居間・洗面台は念入りに清掃をしています。	空気清浄機を新たに購入し、温度管理、換気、エアコンの風の調節に注意している。清掃は職員がしているが、手すりふきは利用者に手伝ってもらうこともある。2階のリビングの壁に赤とんぼとブドウの貼り絵が掲示されて季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にベンチを置いて、季節に応じ使用しています。 居間では、入居者様の相性を考えて、不具合が生じないように席替えなどを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が入居者様の好みの物を持ち込んで、居心地よくその人らしく過ごせるように配慮しています。	動物が好きな利用者の部屋は犬や猫を切り抜いた写真が壁一面飾られていたり、本人が居心地よく過ごせる工夫がされている。自立の利用者は自室の洗面台で歯磨きや身だしなみを整えている。定期的に担当の職員が気持ちよく過ごせるように目配り気配りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内を入居者様がスムーズに行き来できる様に物の設置を確認しています。安全に日々、過ごせるようにしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	令和4年9月9日	評価結果市町村受理日	令和4年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&ServiceCd=320&Type=search)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年9 月27 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人ひとりの個性を大切にし、入居者様の声をよく聞き、思いに添えるように支援しています。コロナ禍で、面会や外出が制限される中で、少しでも楽しんで頂く為、毎月1回のイベントの食事には工夫をこらして作っています。認知症になっても、今ある力を大切にしたい可能性を信じる介護にしていきます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域につながる理念のアイデアを出し合い作りました。理念を共有し、みんなが同じ目的に向かって業務ができていると思います。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出・イベントの自粛が必要とされ、地域とのつながりが困難な状況になっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はコロナ禍の為、書面での開催を行っています。議事録提出後、自治会の意見をお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの近況報告・感染対策・研修内容など、報告して質問・アドバイスを頂いています。最近ではコロナ禍の為、自治会長からの意見を頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡をとりながら、協力をお願いします。そのつながりから、入居相談などがあります。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今は会社全体で、不審者の侵入を防ぐ為、玄関の施錠を行っています。全ての職員に身体拘束廃止の意味を知ってもらい、どんな事が拘束や虐待にあたるかを理解した上で、業務を行ってもらいます。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・職員のストレスチェック・職員同士、情報の共有や意見を交わす事で防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様個人の必要に応じて、対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面をお渡しして説明し、ご理解、納得のいくまでお話しして、後にサインを頂いております。毎回、転倒に関しては、お願いをさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置、ご家族には、状態や状況をお話させて頂いています。ご相談などは、その都度対応しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1度の定例会と毎月のカンファレンスを実施し意見を出し合っています。コロナ禍では、実施が難しい時は、書面での開催をして意見交換をしました。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度、管理者会議を開催。(リモートでも実施)ホームの状況、職員の状態など報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得。 会社全体の研修を実施しホームから参加者を選出。研修後、ホーム内研修として行っています。静岡ホームクリニックによる研修会もあります。(リモートでの実施もあり)		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今はコロナ禍でできていませんが、地域包括の主催で、地域のグループホームを対象に情報交換を行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	業務優先になりがちですが、入居者様優先でご本人の要望などに耳を傾け、安心して生活を送ることが出来るように支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、電話や来所頂いた時に、現在の様子や体調面などをお伝えし、ご家族の要望や不安などをお聞きして、良好な関係を構築できる様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、課題分析をし、ニーズを見極め、その方にあったサービスを提供できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事など、出来る事はしてもらいながら、各々が役割を持って生活が出来る様に支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にケアプラン説明時、ご家族の意向や不安をお聞きし、今後のケアに繋げる様にしています。ご家族様と入居者様が笑顔で過ごせる様な環境づくりをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスが感染拡大する前までは、行っておりました。 今現在は面会禁止であり、お手紙などで関係が途切れないように、対応しています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1・2階の入居者様共に、ご本人の意思を大事にしながら、日々の交流をしています。入居者様同士の関係を把握し、場合によっては席替えをすることもあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方々から、相談があればその都度、対応し支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望にそえる様、各々話を傾聴しています。返答ができない方には、日頃の様子を観察したり、ご家族に聞いたりして、アセスメントしつつ、生活しやすいようケアをしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントを行い、今までの生活の把握に努めております。日常の会話やご家族の方々から聞き取り、その情報は、職員全員把握できる様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員からの報告、介護記録の確認や一人一人の日常において、関わりを持ち観察する事で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1回、カンファレンスを行い、職員同士で話し合い、現状にそったケアプランを作成しています。状況に変化があった場合は、すぐに話し合いケアプランを変更しています。ご家族にも電話などで、要望を伺っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに経過記録を入力、支援日誌は手書きで記録し、職員間で情報の共有に努めています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その方に合わせた柔軟なサービスを行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナ禍の為、ボランティア方々の交流がありませんが以前は、バイオリンの演奏、踊りなどの訪問がありました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の静岡ホームクリニックとたんぼ診療所の往診があり(入居者様によって違う)急病時等、臨時往診も対応してくれます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	静岡ホームクリニック看護師による、健康チェックをしています。処置のアドバイスも受けて、指示により受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係との、情報交換は常に出来る様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医、看護師と話し合い、希望に沿った支援ができるよう、常に連携をとっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修、勉強会、現場での経験を活かし、対応できる様、努めています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今現在新型コロナウイルスによって、消防立ち合いの訓練が実施できない状況であり、実施環境が整ったら、即座に行う予定です。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに対し注意をしています。気づきがあれば、管理者、リーダーが注意をして改善を図っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々の、日常会話や声掛けの中で、ご本人の希望を汲み取る様心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、希望に沿った支援を行える環境を整えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を決められる方に対しては、行って頂きます。 訪問美容室も2カ月に1回、来て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは主として、職員が行っていますが、洗い物、食器拭きなどは出来る方に、同意を得て、いっしょに行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をタブレットに記載し、入居者様の摂取量を把握し支援を行っています。 水分量の少ない方には、好きな飲み物を提供して、水分摂取を促しています。		



静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしています。お1人で歯磨きが出来ない方には、仕上げ磨きをしています。又、拒否のある方には、様子をみながら実施しています。義歯の掃除がしっかりできない方の対応もしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録により、入居者様の排泄パターンを把握、定時誘導や声掛けを行っています。拒否のある方には、時間をあける等して、誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をタブレット、申し送りで確認し、処方された下剤の服用を行っています。水分摂取を促し、体操が可能な方には声掛けしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル測定、体調をみて、声掛けをし入浴をして頂いています。更衣、洗身等、ご自分出来る事はして頂いています。拒否のある方には次の日に変えたり、職員を変えたりして対応します。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人のペースで過ごして頂いています。夜間は快適に休息出来る様に、各居室の温度管理とトイレ誘導をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、入居者様の名前、日付、薬の確認をしています。服薬後の確認を別の職員がしています。薬の変更や増減された時は、体調の変化を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来る範囲で家事をお願いしています。体調が悪いとお断りされる方もいらっしゃると思いますが、ほとんどの方が快く引き受けてくれます。残存機能により役割分担を行っています。		

静岡県(グループホーム草薙織音)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染拡大により、密になる場所には行けませんが、ホーム近くを一緒に散歩したりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、入居者様全員の預かり金を管理させて頂いています。ご本人の生活の必需品を職員が買い物に行くようにしています。 コロナウイルスの為、入居者様との買い物は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿って、電話や手紙のやり取りがスムーズに出来る様に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は、毎日の清掃、室温温度を管理しています。季節にあった飾りつけなどを行っています。 感染予防も兼ねて、居間・洗面台は念入りに清掃をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にベンチを置いて、季節に応じ使用しています。 居間では、入居者様の相性を考えて、不具合が生じないように席替えなどを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が入居者様の好みの物を持ち込んで、居心地よくその人らしく過ごせるように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内を入居者様がスムーズに行き来できる様に物の設置を確認しています。安全に日々、過ごせるようにしています。		